



上：オオムラサキの幼虫（内）
下：エノキの落ち葉を調べる

冬の昆虫調査と聞いてもピンとこない人が大半だと思います。「冬に虫なんかいるの？」と思う人もたくさんいるはず。でも、生物は自然発生しないのだから、必ず何らかの形で冬を越しているはず。そう、冬でも探せば昆虫はいるのです。むしろ、冬に調査することで生息環境がよくわかる昆虫もいます。例えば、チョウの様に「幼虫は植物を食べ、卵や幼虫の状態越冬する」昆虫は、冬に寄主植物を調査することによって、調査地に実際に生息しているのかどうか、調べることができます。生息している場合は「どの様な環境に生育している寄主植物を好んで利用しているのか」を知ることができます。

オオムラサキの幼虫はエノキ属だけを食べ、冬は樹上から降りて、自分がいたエノキの根本の枯れ葉の裏で越冬します。冬にオオムラサキの調査をすることにより、生息の有無や生息環境について、多くの情報を得ることができるのです。

しかし、オオムラサキの調査の実態は「植物チームがマークをつけたエノキを、図面を基に探し出し、

ある日のフィールド・ノートから

エノキの木の下で

エノキの根際にしゃがみ込み、ひたすらエノキ周辺の落ち葉をバットに集めて一枚一枚チェックして捨てる」という辛くさい作業を日がな一日続けるというものです。端から見れば、二ホンザルが落ち葉で遊んでいるようにしか見えない調査です。さらに、雪が降ろうが、槍が降ろうが、調査することができるため、日程を決めれば、土砂降りの雨や雪にでもならない限り、どんなに寒くても調査は延期になりません。日程が決まった日から天に向かって、暖かくなりますようにとお祈りする日々が続きます。祈り通じず、前日の天気予報で寒くなるといわれた日には、パッチ、フリース、手

袋、帽子、考えられる限りの防寒対策を講じます。そうすると、見た目のサル度はさらにアップします。

最近、宇都宮大学の小林さんによってオオムラサキの生態に関する研究がいくつもなされており、野外での生態に関する知見は増えています。私たちの調査でも様々なデータが蓄積されて、オオムラサキの幼虫が利用するエノキの条件も少しずつ

わかってきました。しかし、保全対策のモニタリング調査で現場に出ると、これらのデータがオオムラサキの保全対策に生かされているのかどうか疑問に感じることも少なくありません。オオムラサキの保全対策のためにエノキを移植する場合でも、エノキの生育適地に移植されていない事例なども見られ、オオムラサキの生態に配慮されていないのではないかと感じる事が多々あります。

里山を代表するオオムラサキ、それを調べるサルたちの背中に少しの悲哀を感じているのは私だけでしょうか？

(大阪支社自然環境調査室・上田達也)



お待ちしております

素朴な疑問やご感想など下記のアドレスまでお寄せください。お待ちしております。

E-mail :nl-info@chiikan.co.jp

編集後記

1月下旬に、初めてクロスカントリースキーを体験しました。まず、クロスカントリー用の靴と板の軽さに驚きました。ゲレンデスキー用のブーツを履いた時のロボットの様な歩き方とは比べ物にならないほど快適です。そして、ふかふかの雪が積もっている林の中を爽快に滑れるなんて素敵！・・・と言いたところですが、実際はちょっとした坂でも転び、起き上がろうとしてもがき、さらに埋もれるということを繰り返し、0位の寒さの中でもしっかりと汗をかくことができました。当初「赤い小鳥たちを見たい」と意気込んでいたのですが、双眼鏡を出す余裕はありませんでした。唯一、カワガラスを見ることができたのは嬉しかったです。いつかは小鳥を観察しながら、滑れるようになってみたいものです。(高岡由紀子)

News Letter NO.13 2002年2月

【発行】.....株式会社地域環境計画

発行人.....高塚 敏
編集...中山香代子・伊藤 透・鈴木志保子・高岡由紀子

東京本社 〒154-0015
東京都世田谷区桜新町2-22-3 NDSビル
TEL 03-5450-3700 / FAX 03-5450-3701
営業窓口...鈴木志保子・伊藤 透・高岡由紀子

大阪支社 〒569-1123
大阪府高槻市芥川町1-15-18 ミドリ芥川ビル
TEL 0726-84-3182 / FAX 0726-84-3184
営業窓口.....中山香代子

北海道支社 〒001-0017
北海道札幌市北区北17条西5-20-303
サンオーIビル1F
TEL 011-717-8001 / FAX 011-717-8021
営業窓口.....中島正雄